The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	新年のごあいさつ
Author(s)	笹井, 康典; 相良, 武彦; 武市, 秀雄 他
Citation	makoto. 2010, 149, p. 2-5
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85726
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

新年のごあいさつ

大阪府健康医療部長

笹　井　康　典

新年あけましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆様には、益々清祥のこととお慶び申し上げますとともに、日頃から本府の健康医療行政に対して格別のご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

昨年は、新型インフルエンザの世界的流行により、本府においても、5月には府内初の確認を受け、全校休校等の対応や発熱外来の設置、10月には定点あたりのインフルエンザ患者数が30人を超え、警報発令となるなど、感染患者の拡大への対応が求められました。そのため、医師会や市町村等関係機関の協力を得て、医療提供体制の確保などを行ないました。また、10月からは重症化の防止等を目的にワクチン接種事業も始まりました。

今回の新型インフルエンザ(A/H1N1)は、①感染力は強いが、多くの感染者は軽症のまま回復しており、②抗インフルエンザウイルス薬の治療が有効であるなど、季節性インフルエンザと類似する点が多いものです。しかし、基礎疾患を有する方等において重症化する場合があることや、国民の大多数に免疫がないことから、今後も、季節性のインフルエンザを上回る患者が発生し、医療を始め、わが国の社会経済に深刻な影響を与えるおそれがあります。

本府では、引き続き関係機関と連携して府民生活や経済への影響を最小限に抑えつつ、感染拡大を防ぐとともに、死亡や重症化を防ぐための医療体制の整備等の推進に全力を尽くしてまいります。

感染症など公衆衛生に対する府民の関心がかつてなく高まっている今日、貴協会におかれましては、これまでのワクチン供給、消毒等の公衆衛生における豊富なノウハウと高度な技術をいかんなく発揮されることを、大いに期待しております。

結びに貴協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈りいたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

財団法人　大阪防疫協会

理事長 相　良　武　彦

新年あけましておめでとうございます。

皆様方にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中はなにかとお力添えをいただきありがとうございました。

本年も変わらずご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、一昨年のリーマンショックに始まった世界金融危機の影響で、それまで比較的好調とされた大企業の業績が急激に悪化しました。その結果として、雇用調整に伴う失業者の増加、買い控えによる消費の低迷やらで、昨年のわが国の実体経済は一気に深刻な様相を呈しました。そこで、わが国でも昨年来、エコポイント制度の導入、高速道路料金の土曜休日割引や、その他さまざまな不況対策が講じられているところです。それがことごとく奏功し、速やかに景気が回復することを願うものです。

また、昨年3月メキシコに始まった新型インフルエンザの流行が、瞬く間に世界中に蔓延し、今更ながら感染症の怖さを実感したものです。このインフルエンザは強毒性でなかったにもにもかかわらず、多数の死者を出しつつ、今も猛威をふるっています。

この状況に対し、各種ワクチンの供給に携わる当協会としましても、新型インフルエンザの罹患者に若年者が多いことから、麻疹風疹等の各種定期接種の予定に狂いが生じ、それぞれの接種率が低下することを深く危惧いたしているところです。それゆえ新型インフルエンザの流行が早急に終息し、定期接種が予定どおり実施されることを切に願ってやみません。

新公益法人制度が施行され、既に一年以上が経過しました。各団体とも他団体の動向を参考にしようとの思惑もあってか、移行実績、申請件数共に低調と聞いております。

しかし、時の過ぎゆくのも早いもので期限まで4年を切った今、当協会も速やかに方針を決定の上、しかるべく準備をしてまいる所存です。どうぞ重ねてのご支援よろしくお願いいたします。

今年が皆様方にとりましてより良い年になりますことを祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

大阪市健康福祉局
健康推進部長
武　市　秀　雄

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の健康福祉行政の推進に格段のご理解、ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の春にメキシコやアメリカ合衆国において初めて確認された新型インフルエンザは、瞬く間に世界中に広がり、全世界で猛威を振るっています。日本国内においても広く流行し、大阪市内でも多数の学校園において学級閉鎖がされるなど、多くの感染例が報告されています。このような状況の中、大阪市では、市民の皆様からの問い合せに対応するために新型インフルエンザ相談電話を設置するとともに、リーフレット等を作成し新型インフルエンザの感染予防についての普及啓発に努めております。また、市民の皆様が安心して診察、入院治療が受けられるよう、医療機関のご協力を得ながら、新型インフルエンザに関する医療体制の充実を図っております。

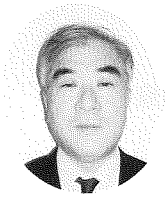
市民の健康に関わる課題は、インフルエンザに止まるだけではありません。ウエストナイルウィルスの国内への侵入、気候変動に伴うマラリヤやデング熱の流行域の拡大といった蚊が媒介する感染症に対する懸念や、シックハウス症候群をはじめとした居室内の空気環境についても市民の関心は高まっております。大阪市では、これらの事態に迅速に対応していくために健康危機管理体制の整備を進めております。

今後とも、だれもが住みなれた地域で安心して健やかに暮らせるよう、保健・医療・福祉施策の充実に力を注ぐとともに、「大都市、そしていちばん住みたいまちへ」をキーワードに、魅力と活気あふれる「元気な大阪」の実現に取り組んでまいります。

貴協会の皆様方におかれましては、永年にわたり培ってこられた防疫対策や建築物の衛生管理に関する豊富な知識と経験、高度な技術を生かされ、快適な生活環境の推進にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ



堺市健康福祉局健康部長
北　牧　　昇

新年あけましておめでとうございます。

財団法人大阪防疫協会の皆様方におかれましては、清清しい新春を穏やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、多方面において、本市保健衛生行政の推進に格別のご理解とご協力を賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。

ご承知のように、世界同時不況に端を発する景気後退、待ったなしの地球温暖化対策、雇用対策など、行政を取りまく社会経済情勢は大変厳しい状況にあります。

そのような中、古来から自治都市の歴史を持つ堺市は、新市長を迎え一丸となって、市民目線に立ち、情報公開をより推進し、政令指定都市にふさわしい風格を備え、地域主権の新しい時代への先導役を担うまちづくりに取り組んでいるところであります。

一方、保健衛生分野におきましては、新型インフルエンザが世界的にまん延する状態に陥ってしまい、市民生活の安全が脅かされる状況になっております。この状態に対し、感染拡大防止、医療の確保、情報の共有等、早急な対応が求められております。

本市といたしましても、緊急時等におけるセーフティネットの構築を行ない、市民が健康に安全で安心して暮らせるよう対応しております。

貴協会におかれましても、「健康都市・堺」の実現をめざした環境の確保のため、今後とも豊富な知識、経験、高度な技術を活用していただきまして、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と皆様方のご活躍とご健勝、そして、本年が皆様にとりまして健康で幸多い一年となりますことを心よりお祈りいたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

東大阪市健康福祉局

健康部長 木 村 潤 一

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様方には、益々ご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

旧年中は、本市の保健衛生行政の推進につきまして格段のご理解、ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、アメリカ合衆国の第44代大統領として、バラク・オバマ氏が就任し、初のアフリカ系アメリカ人の大統領が誕生する一方、わが国においても、第45回衆議院議員総選挙において、自由民主党が歴史的大敗を喫し、民主党による政権交代が実現するなど、まさしく変革の年を迎えることとなりました。

また、近年の感染症における関心事であった新型インフルエンザの世界的流行（パンデミック）が現実のものとなり、WHO（世界保健機関）は警戒水準を最高度の「フェーズ６」に引上げる事態に至りました。ＷＨＯには、世界中で48万人以上が感染し、６千人を超える死者の報告がなされており、背景に全世界のグローバル化による影響の大きさを感じずにはいられません。これからも、蚊媒介性感染症をはじめ、様々な感染症が国境を越えて多くの国々に発生・流行することが危惧されます。

こうした状況の下、本市におきましても、様々な健康危機事象に対して迅速に対応するべく、危機管理体制の更なる充実化、市民への啓発徹底などに努め、市民が健康で安全に安心して暮らせる街づくりの推進に努めてまいります。

貴協会におかれましては、永年にわたり培ってこられた公衆衛生における豊富な知識と経験、高度な技術を遺憾なく発揮され、今後とも本市の保健衛生行政の推進に、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、財団法人大阪防疫協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

高槻市保健福祉部長

三 宅 清 道

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、貴協会におかれましては、平素より本市の保健福祉行政の推進にご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、公衆衛生の観点から昨年を振り返ってみますと、新型インフルエンザの国内流行が大きな問題となりました。国外での流行をうけ水際作戦を取っている中、５月に神戸市で渡航歴のない高校生が新型インフルエンザと確認されました。高槻市でもその翌日に患者が確認されたところです。

本市では、当初から国や府と連携を取りながら強毒性を想定した対応を行ったところですが、いち早く貴協会から消毒の専門家を派遣していただいたおかげで救急車等消毒実地訓練を実施できました。本市職員にとって、日頃の消毒方法の確認や意見交換、情報収集の機会を持てたことは誠に有意義であり、ご協力に感謝いたしますとともに、大変心強く感じたところです。

現在、新型インフルエンザに迅速かつ的確に対応し、被害の拡大を防止するため、「高槻市健康危機管理対策本部」を設置し、全庁的な対策を実施しているところであり、今後も取り組みを一層充実・強化するとともに、適切な情報提供等に努めてまいりたいと考えております。

今後の健康危機に関しては、強毒性インフルエンザの流行、デング熱やウエストナイル熱ウイルスの侵入などが危惧されております。

貴協会におかれましては、永年培ってこられた防疫や環境衛生対策などに関する豊富な知識と高度の技術を遺憾なく発揮され、本市の保健福祉行政の推進に、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝ご多幸を心から祈念いたしまして新年のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ

大阪府保健所長会々長
大阪府茨木保健所長
一　居　　誠

新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、財団法人大阪防疫協会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃は保健所の事業推進につきまして格別のご理解、ご協力を賜っておりますことを感謝いたします。

さて、今年も新型インフルエンザの話題を取り上げることになりました。昨年の貴誌新年号あいさつでは「近い将来に出現するとされる新型インフルエンザが高病原性鳥インフルエンザと同じH5N1亜型か、それ以外の亜型なのかは分かりませんが、いずれにしてもヒトは新型ウイルスに免疫を持たないため、大きな健康被害が予想され、まん延状況によっては社会機能が破綻するおそれがあります」と申し上げました。

ところが、昨春から新型の豚インフルエンザ（H1N1亜型）がメキシコで発生し、瞬く間に世界中に広がって、大阪府でも５月には当保健所管内の高校で集団感染が起こりました。その後の経過は皆さんご存知の通りで、大流行による学級閉鎖や休校など、新型インフルエンザの話題がメディアで取り上げられない日はないと言ってもよいくらいです。また、新型インフルエンザや従来からの季節性インフルエンザのワクチンが供給不足のため、各地で予防接種の実施に困難を来たし、住民からの苦情が医療機関や行政に寄せられています。ここ当分は、弱毒型のインフルエンザとはいえ乳幼児に脳炎・脳症が多発していることもあり、流行の状況を注視するとともに、各個人が新型インフルエンザに関する正確な知識を持って、冷静に行動することが肝要と思われます。保健所も地域における感染症対策の拠点として、引き続き情報提供と感染予防の啓発に努めてまいります。

今年も、貴協会がこれまで培ってこられた防疫、環境衛生対策などに関する豊富な知識や技術を遺憾なく発揮され、良好な環境づくりにご尽力いただくとともに、保健所へもご支援をいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と、会員の皆様のご健康、ご活躍をお祈り申し上げます。

新年のごあいさつ

財団法人
阪大微生物病研究会
理事長　東　　雍

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、お健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は、財団法人阪大微生物病研究会のワクチン事業に対し、格別のご理解とご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は春先にメキシコ、米国などでブタ由来の新型インフルエンザ（H1N1）が発生し、その後瞬く間に地球規模の大流行（パンデミック）を招きました。現在もWHOを中心に世界中で対策が講じられており、わが国においても、すでに策定されていた新型インフルエンザ対策行動計画を基に水際検疫作戦など迅速な対策が取られましたが、流行を抑えることはできませんでした。スペインかぜや香港かぜの時代に比べ現代社会は人々の交流も大規模かつスピーディーでウイルスの伝播力は人智をはるかに超えるものでした。危機管理には「これで良し」というものはなく、このような教訓を生かしながら完成されていくものだと痛感いたしました。

私ども微研財団では、昨年６月より新型インフルエンザワクチンの製造を最優先に、通常の季節性ワクチンそして近い将来その発生が危惧されている刊由来の新型インフルエンザに対するプレパンデミックワクチンの製造にもフル稼働で臨んでおります。また、将来的にはより迅速な供給体制を整えるべく、細胞培養法によるインフルエンザワクチンの開発にも取り組んでおります。今後もワクチンには感染症対策の中核として重要な役割が課せられるものと思います。当財団は昨年、大阪大学微生物病研究所との基礎的研究の連携強化のため、本部機能を同大学融合型生命科学総合研究棟に移転させていただきました。

また、このたびの公益法人制度改革により当財団は一般財団法人への移行を申請しております。私ども微研財団は、ワクチンの開発および製造、供給を通じて公衆衛生の向上に貢献できますよう、一層努めてまいります。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と皆様方のご活躍ご健勝を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。